4 質の高い教育を
みんなに

関東地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

活動レポート 2017-18

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

ESD推進の経緯

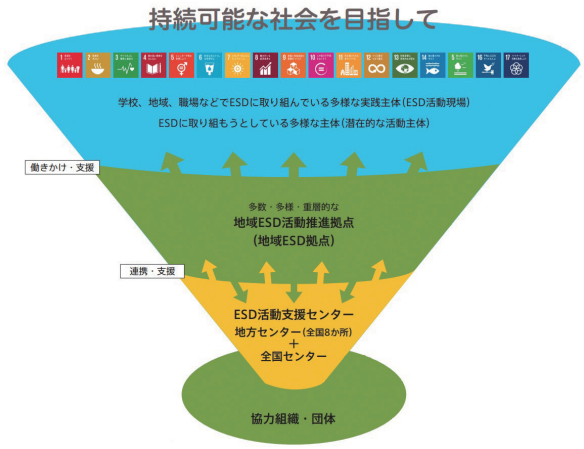
●2002年（H14）持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ･サミット）で「ESDの10年（DESD）」が提唱される。
●2005年（H17）国連持続可能な開発のための教育の10年開始～ 2014年（H26）まで
●2014年（H26）「ESDに関するユネスコ世界会議」においてDESDの後継プログラムとして「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」の開始が正式発表
●2016年（H28）「我が国における『持続可能な開発のための教育　（ESD）に関するグローバル･アクション･プログラム』実施計画」（ESD国内実施計画）が関係省庁連絡会議で決定
●2016年（H28）4月 ESD活動支援センター（全国）開設
●2017年（H29）7月 関東地方ESD活動支援センター（関東ESDセンター）開設。全国8地方センター開設

【ESD国内実施計画（抜粋）】

「～ ESD活動に取り組む様々な主体が参画・連携し、拠点の形成とともに、地域が必要とする取組支援や情報・経験を共有できる「ESD活動支援センター（全国・地方）」を整備し、地域の実態を踏まえた効果的な運用を図っていく。」

■ESD推進ネットワーク

関東地方ESD活動支援センターは、全国センター、地方センター、地域ESD活動推進拠点、各地のESD活動の現場の皆さんとともに、ESDの推進を行なっていきます。



■関東ESDセンターの活動エリア

関東ブロック（1都9県：茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・山梨・静岡）におけるESD活動・実践者を支援し、地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）と協働・連携した活動、さらに全国センターと協働・連携して地域と全国や海外との協働・連携を支援しています。

■地方ESDセンター 4つの機能

1. **ESD活動を支援する情報共有機能**
2. **現場のニーズを反映したESD活動の支援機能**
3. **ESD活動のネットワークの形成機能**
4. **人材育成機能**

持続可能な開発のための教育（ESD＝ Education for Sustainable Development））は、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動である。

【ESD国内実施計画より】

持続可能な開発目標（SDGs）とは2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものです。ESDは目標４の中のターゲット4.7に記載されています。「教育が全てのSDGsの基礎」であり、「全てのSDGsが教育に期待」している、とも言われています。

1．ESD活動を支援する情報共有機能

http://kanto.esdcenter.jp/

首都圏を中心に、関東エリアでは様々な団体がESD/SDGsに関連したイベント、セミナー、コンテスト等を実施しています。そうした情報を収集し、情報発信しています。

当センターが実施したアンケートで、「ESDの具体的な取組状況が分からない」というご意見が多数あり、各地で開催される行事に参加し、記事を掲載しています。

この他に、当センター開催行事の報告や、ESDに関する教材などの情報源の提供など、様々な情報提供を行なっています。

いいね！

Facebookでも、日々の活動など情報発信中！
いいね！をお願いします。

メールマガジン

毎月第1木曜日にメールマガジンを発行しています。関東地方のESDに関するイベント、セミナー、補助金・助成金募集などの情報を集めてお送りしています。ESDにご関心のある方は、是非ご利用下さい。

メールマガジン登録

【取材レポート】

親子で学ぼう！人間と動物のつながり ～縄文人のくらしを探る～

各地で実施されるESD/SDGsに関連した行事等を取材し、レポートにしています。ここでは、動物園と文化財保護の施設が連携した取り組みを紹介しました。子供たちに深く内容を理解し関心を持ってもらうには、こうした事物を通じた内容にすることで、自ら学ぶ意欲が高まります。縄文人がイノシシを狩猟し、暮らしに役立てていた事を学んだ後、動物園でイノシシを観察し、動物と人間の関わりについて学びました。

場　所：東京都多摩動物公園
東京都立埋蔵文化財調査センター
参加者：親子15組

【寄　稿】

環境と防災のフィールドワーク ～気候変動適応策を学ぼう～

ESD/SDGsに関連した行事の主催者の方より、取り組みに関するレポートの寄稿も掲載します。川崎市環境局が実施した取り組みの紹介例です。

◆内容

1. 事前学習として、気候変動による影響や川崎市内の気温の変化、「緩和策」と「適応策」とその取組などを理解するための教室内授業。
2. 防災マップなどの資料を基に、まち歩きで流域の境界や過去の浸水被害の場所、河川の浸水対策場所などを巡り、気象災害から身を守るポイントなどを学ぶフィールドワーク。

◆参加者の様子

参加者は、学校周辺の街で取り組まれた防災対策を間近に見て、その背景を知り、また、その土地の標高を調べてみることで、大雨災害など、いざという時にどうしたらいいかなどを積極的に考えるなど、熱心に参加していた。

◆まとめ

今回の学習は、環境と防災という一般的には別々に扱われやすい課題について、テーマを融合して、主に小学校などでの授業向けに神奈川県立向の岡工業高等学校定時制・総合学科との協働で授業用のカリキュラムを作成し、実践した。結果、とても重要な学習の機会となった。今回の学習で開発したカリキュラムについて、今後、市内の小・中学校などに提供して気候変動適応策に関する学習の実施を支援するなど、地域における環境教育・学習の推進を図る予定。

2．現場のニーズを反映したESD活動の支援機能

ESD実践の現場で役立つものとして、先進事例の勉強会など、ニーズや機会に応じて実施しています。平成29年度は、下記のような勉強会を開催しました。

“ESD勉強会” 社会教育施設と学校との地元連携を考える

【実施概要】

日　時：平成29年9月25日㈪　9：30 ～ 16：00
場　所：江東区深川江戸資料館
共　催：江東区立八名川小学校
　　江東区立深川江戸資料館
参加者：25名（社会教育施設、教育関係者）
講　演：江東区立八名川小学校　校長 手島利夫氏

【実施内容】

■八名川小学校生徒による「江戸・深川の歴史案内」

江東区立八名川小学校の6年生は総合的な学習の時間を中心に「江戸深川の町を語ろう」として、生徒が各自、自分の興味のあるテーマを調べ、発表する取組を展開してきた。以前は学校内で実施していたものを、平成27年度より深川江戸資料館の協力を得て、資料館の休館日に調べたものを発表する取組を行っている。今回は、この八名川小学校による発表の様子を見学した。生徒たちはそれぞれ趣向を凝らした発表を行い、聴衆が興味を持つように工夫を凝らしている生徒も多かった。発表をすることで学びをさらに深めていた。

■ワークショップ

手島校長の講演の後、「学校と社会教育施設の連携のメリットを考える」、「各地でさらに普及するには」という2つのテーマでグループワークを行った。参加者は、教育委員会や博物館関係者が多く、学校との連携を希望するものの、なかなか実現に漕ぎ着けないという実態などが話題に上った。

ESDは様々な手法により各地で取り組まれているが、自分たちの住む町の過去の様子を学ぶことで、地域への「愛着」や「誇り」に繋がる学びを実感した。

3．ESD活動のネットワークの形成機能

国際協力、福祉、環境、教育など、これまで分野ごとに活動していた組織をESD/SDGsという枠組みで範囲を広げてつなぐことで様々な相乗効果が期待できます。地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）と連携しながら、都県レベルのネットワークの形成支援を行なうとともに、関東エリア全体として、互いに学びあえるようなネットワークの形成を目指します。平成29年度は、下記のような取り組みを実施しました。

関東地方ESD活動支援センター 地域意見交換会 in 栃木

【実施概要】

日　時：平成29年9月8日㈮　15：00 ～ 17：00
場　所：栃木県保健環境センター
共　催：栃木県地球温暖化防止活動推進センター
参加者：29名（栃木県内の環境保全活動にかかわるNPO、中間支援組織、行政関係者、地球温暖化防止活動推進員）

【実施内容】

関東地方ESD活動支援センターの設立経緯や活動目的、SDGsとESDの関係、最近のESDの取組事例などを紹介。ESDの具体的な取組事例として、関東EPOで実施している「環境教育・学習における『ESD 推進』のための実践拠点支援事業」の「栃木県 動物園・水族館連携 ESDプロジェクト」について、事例の紹介を行った。同じ県内で生物多様性の分野の取組事例を紹介することで、活動のヒントにしてもらった。

その後5グループに分かれ、事例紹介で参考になる点や良いと思った点をまとめるワークショップを実施。立場の異なる様々な方が、同じテーブルで意見交換する機会となった。

最後に関東地方ESD活動支援センターの企画運営委員の宇都宮大学教育学部の陣内教授より、講評を頂いた。「新学習指導要領は、知識詰込型ではなく知識を活かしどう使っていくか、というESD的なものへと戦後最大とも言われるほど変わろうとしている。また、地域での学びも大きなポイントとなっているが、学校だけで実施するのは難しい。皆さんがESD的な視点を持つことで、学校と連携する可能性が高まる。少し枠を外すことで、色々なところと繋がれる。楽しさ、感動、おしゃれ感があれば、若い人も入って来られる。ここから新しい流れを作っていく事に、とても期待している」。

グンマノミライ2030

【実施概要】

日　時：平成30年2月1日㈭　14：00 ～ 16：35
場　所：前橋市総合福祉会館
主　催：群馬県地球温暖化防止活動推進センター
　　関東地方ESD活動支援センター
後　援：群馬県
参加者：83名（NPO、自治体、教育関係者、報道）

【実施内容】

持続可能な開発目標（SDGs）が話題になっているが、「解決すべきグローバルな課題」と言われても、「自分には関係ない」、「話が大きすぎて手に負えない」と思ってしまうかもしれない。しかし、自分の身の回りの持続可能性を考えてみることで、群馬の地域課題や、群馬と日本全体、群馬と世界の繋がりも分かり、将来に向けて、何が必要なのかが明確になる。SDGsの目標年度である2030年に、「群馬がどのような姿になっているのか？」、「その時に向け、県民・行政・企業はどうするのか？」を考えてみた。

ESD/SDGsについての解説、センターの概要紹介の後、4つの取組みについて発表。ワークショップは「2030年はどんな社会？」をテーマに、温暖化、人口減少、外国人割合などの統計データを話題提供した上で、群馬の“宝物”と“課題”を抽出し、“宝物を残す方法”と“課題解決の方法”についてアイディアを出し、将来に向けて何ができるかを話し合った。

これまで、同じ県内でも活動テーマが異なり、なかなか出会うとこができなかった多様で様々な活動団体・年齢層の方の参加を得た。この新たな出会いを軸に、ESDを推進する新しい枠組みを創出する可能性が出てきた。

【プログラム】

- 開会挨拶：環境省　関東地方環境事務所 有田一仁
- ESD/SDGsについて　関東ESDセンター 伊藤博隆
- 最近の取組紹介1　群馬県環境サポートセンター
  群馬県環境政策課 松原寛人氏
- 最近の取組紹介2　前橋市市民活動支援センター
  Mサポセンター長 星野修志氏
- 事例紹介1：鮭に学ぶESD
  チャウス自然体験学校　代表 加藤正幸氏
- 事例紹介2：地域と海外をつなぐ
  NPO法人自然塾寺子屋（ビデオ上映）
- 最近の取組紹介3　JICA東京
  市民参加協力第一課 高橋依子氏
- ワークショップ2030年はどんな社会？
  ワーク1：群馬の“宝物”と“課題”の抽出
  ワーク2：“宝物を残す方法”と“課題解決の方法”
- 閉会挨拶
  群馬県地球温暖化防止活動推進センター　中島啓治

関東ESDセンター活用に向けての意見交換会

【実施概要】

日　時：12月12日㈫　10：00 ～ 16：35
場　所：東京ウィメンズプラザ
主　催：関東地方ESD活動支援センター
　　関東地方環境パートナーシップオフィス
　　（関東EPO）
参加者：52名（中間支援組織・地方公共団体）

【実施内容】

関東EPOが、地方公共団体の職員と各都県の中間支援組織を集めて毎年開催している、「関東EPOパートナーズミーティング」と連動して開催した。

関東ESDセンター開設後、管内のステークホルダーが一堂に集まる最初の機会であったため、センターの概要説明や、地域ESD推進拠点について、今後センターが目指すESDネットワークの構築について情報提供を行った。

その後、都道府県ごとに分かれて、自分の地域でESDを推進するための「課題」の抽出と、「誰（組織）がどのように動くか」、そこに関東ESDセンターがどう関わり、支援すべきか意見交換するワークショップを実施した。

関東ESDセンターへの期待では「県ごとに集まる機会づくり」「とにかく人・組織をつなぐ」「モデル事例の見学会の開催」等が出された。

関東地方ESD活動支援センター発足記念・関東ESD推進ネットワーク 地域フォーラム

ひとづくり2030

SDGs達成に向けた人材育成について学び・考え・行動する

関東地域のESD実践者とこれから実践しようとする方々をつなぎ、ともに学ぶ場として開催しました。SDGs達成年の2030年に向けて、私たちはどんな取組をすれば良いのか、そのための担い手、ひとづくりはどうしたらいいのかを、基調講演、3つの事例発表とそれを深めるワークショップを通じて考えました。

【実施概要】

日　時：平成30年3月4日㈰
会　場：東京ウィメンズプラザ
参加者：85名

基調講演

「国際動向におけるSDGsとESD」

東京大学大学院教育学研究科　北村友人 准教授

【講演概要】

ESDを支える大きな国際目標としてSDGsがあるが、「SD＝持続可能な開発」という考え方が何故必要なのか。グローバル化・都市化が進み、世界の半分の人が都市で暮らしている。都市に住むことで、生活や考え方が均質化しているが、まだまだ格差も大きい。先進国と途上国の格差、同じ国の中でも格差がある。

そうした中で持続可能な社会を考える上で、大事な事が二つある。一つは、限られた資源を、誰も取り残さず、みんなでどう使うか。もう一つは、世代間の公平と世代内の公平。全ての人が“豊か”に暮らすにはどうしたら良いかを考えるのがSD。今の世代の欲求を我慢せず、将来の世代も満足できるようにしようという考え方。それを実現するために、豊かさの概念を量から質に変えようと。20世紀半ばまでは人口も多くなく何とかなっていたが、急速に人口が増え環境負荷が大きくなってきた。社会と経済の関係の中で環境を捉えることが重要。

2000年のMDGS（ミレニアム開発目標）は主に開発途上国をターゲットにしたもので、SDGsは世界を対象としたものだが、実は共通目標が多くある。人間と社会の問題、成長と存続に関する問題というように分けられる。人間の成長→教育、人間の生存→保健・健康・衛生、社会の成長→経済開発、社会の存続→環境・資源となる。この4つの領域をバランス良く実現していくことで、持続可能な世界が生まれる。

SDGsに特徴的な問題の捉え方を紹介したい。食料分野でいうと、食料にアクセスできず飢餓に陥る人は減ってきているが、まだ大きな問題である。東南アジアなどの中進国では、安くて手軽にカロリーが摂れるような質の悪いジャンクフードを食べて、子どもが肥満化する問題がある。アクセスは出来ているが質が悪い。Double Burden（二重の負担）と呼んでいる。開発途上国では人口爆発、先進国では少子高齢という、それぞれの課題があったが、途上国では飢餓と肥満が同時に起こるなど、実は一気に一見相反する問題が起こっている。これまでは先進国のように労働集約型から高付加価値型の産業構造にならないと少子高齢化にならないと考えられていたが、タイなどの中進国では起こってきている。タイの隣のベトナムでは、人口爆発がまだ起こっている。色々な問題が同時に起こっており、一つの処方箋を一つの問題に提示することが難しい。

こういう中で、どんなリテラシー（知識および利用能力）を身につければ良いのか、という事をESDは僕らに問うている。一番大切なことは、地域の文脈。自分たちの身近なところから出発して、大きな問題につなげられるような取り組みが大事。その時に大事なのが、“新しい学習観”。学習指導要領が変わるが、その変化は世界の変化に対応している。第三次産業がどんどん増え、技術革新も非常に早く、2030年には今ある職業の半分が無くなるとも言われる。情報公害というように、溢れる情報からいかに必要な情報を選び取るか、ここでもリテラシーが必要になってくる。体系化された知識やスキルを身につけるだけでは、すぐに古くなってしまうし、答えが無い、一つの正解があるような話でも無い。“教

え込む”のではなく“自ら学ぶ”、次の学習指導要領の「主体的・探求的・深い学び」にしていく。OECDでは、コンピテンシー（高い成果に共通する行動特性）のあり方を議論している。ユネスコでも「自分自身と社会を変革（transform）する、社会がどんどん変わる中に自分も参加し、自分や社会を変えながら学んでいくこと」を新たに加えている。こういう学びのあり方が大事で、これがまさにSDGs4.7、ESDの考え方。こうした中で、とても大事なのが、民主的な社会の担い手である「市民」。自らものを考え、自ら判断する。そのために必要な情報をきちんと集められる。そういった力を身につけることで、市民として自立する。そうした市民が増えていくことで、民主的な社会が実現していく。

個人的な意見になるが、ESDが目指しているのは、基本的には民主的な社会の実現ではないかと、強く感じている。ESDと親和性が高く、多くの国が取り組んでいるのが市民性教育＝シティズンシップ教育。自立した市民を育てることが、重要視されている。我々はESDを通して、身近なところから、社会にある問題に気づき、そこに対して働きかけをしていく、そのためのリテラシーを身につける。健康、ITなどの様々なリテラシーズ（複数形）を身につけることによって、世界で起こっている問題に関心を高めながら、持続可能な社会の実現に貢献する人を育てていくことが、大事なのではと思う。

事例紹介

①学校での「ひとづくり」

元天城中学校校長、ESD-J理事　大塚　明氏

自尊感情が低く、多くが卒業後首都圏に出てしまう前に、地域の自然、文化、歴史などの良さを知り、誇りを持って欲しいという思いから、2009年より学校全体でESDに取り組んだ事例とその成果を紹介。

②地域での「ひとづくり」

チャウス自然体験学校 代表　加藤正幸氏

自然体験活動、ツーリズム、防災教育、持続可能な地域づくりなど、課題解決や町の活性化につながるようなプログラムの実践例とそれらをSDGsの17項目で整理し、スタッフで分析した結果を紹介。

③国際・地域を両立する「ひとづくり」

独立行政法人国際協力機構（JICA）
東京国際センター市民参加協力第一課　高橋依子氏

“地域の宝”が海外で役に立った事例、寺子屋さんとともに実施している青年海外協力隊員の派遣前研修、企業のSDGsへの貢献事例集や世界につながる地域の宝などの事例集について紹介。

NPO法人自然塾寺子屋　代表 矢島亮一氏

青年海外協力隊OB/OGで構成する団体。協力隊の派遣前研修、海外から来る研修員の受け入れ等を敢えて群馬の山の中で地元農家、農協青年部、中小企業等の協力も得て実践している事例を紹介。

分科会

全体会で発表して頂いた、3つの「ひとづくり」の事例をより深く理解するために、分科会に分かれてグループワークを行った。

〇グループワーク１
「この事例は、SDGsのどのゴールに貢献しているのか考える」

〇グループワーク２
１で決めたゴールについて、「このポイントによってどういう行動・考え方ができる人が育つか掘り下げる」

全体会

3つの分科会、それぞれ4グループで実施された内容について、分科会ファシリテータースタッフより報告を行い、事例発表の講師の方と最後に高田委員長からコメントを頂いた。

■全体まとめ：

関東地方ESD活動支援センター企画運営委員長
／都留文科大学社会学科　高田研教授

北村先生の基調講演の最後で「ESDは、多様なリテラシーを身につけて、それは市民教育だ」と言い切られました。まさに私も同感で、それを理論的にまとめて頂いたと嬉しく思っている。何となく市民教育というと政治教育、もっと細かく言うと選挙の教育になりがちではあるが、本来はそうではない。市民として、どうあるべきか？　どんな市民が育つのか？　その具体的な教育方法が、ばらせばこんな形で表現されて、非常に具体性を持って教育内容が深まっていくというのが、私の結論。

本日、参加した皆さんが地域に帰って、ESDをキーワードにした教育活動をして頂くのを、本当に期待している。実践を交換しあいたいと思う。

次回を楽しみにしている。

4．人材育成機能

ESD活動人材の掘り起こし、ご紹介、インターンの受け入れなどを行っています。
平成29年は、新潟県の環境リーダー研修、新潟市の教員向け研修など、地域のニーズにあった内容を提供しました。
関東ブロックの環境カウンセラー研修ではESDとSDGs、ファシリテーション技術を結び付けた講義を行いました。
今後、地域ESD拠点と連携し、講師の派遣、研修等の企画等を行っていきます。ご相談、ご用命ください。

■ 関東地方・地域ESD活動推進拠点（平成30年3月現在）

ESD活動支援センター（全国・地方）では、各地域でESDの取り組みを支援することでESD推進ネットワークを牽引する「地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）」を、重要なパートナーと位置づけています。

地域ESD拠点は、地域で先導的、波及効果の高いESD活動を実践している組織・団体や、地域でESD活動を支援している組織・団体などの協力を得て、形成されています。地域ESD拠点は、趣旨に賛同して登録していただき、公開する仕組みとなります。詳細については、関東ESDセンターにお問い合わせください。

【茨城県】
認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ＜水戸市＞

〒310-0022
茨城県水戸市梅香二丁目1番39号
茨城県労働福祉会館2階
ＴＥＬ．０２９－３００－４３２１
ＦＡＸ．０２９－３００－４３２０
E-mail　info@npocommons.org

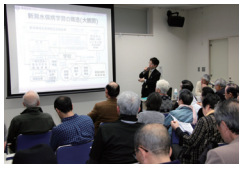
【群馬県】
チャウス自然体験学校（NPO法人チャウス）＜桐生市＞

〒376-0013
群馬県桐生市広沢町7-7-5
ＴＥＬ．０２７７－５２－７７９９
ＦＡＸ．０２７７－５２－７７９１

【埼玉県】
筑波大学附属坂戸高等学校＜坂戸市＞

〒350-0214
埼玉県坂戸市千代田1-24-1
ＴＥＬ．０４９－２８１－１５４１
ＦＡＸ．０４９－２８３－８０１７
E-mail　fsakadokou@un.tsukuba.ac.jp

【新潟県】
学校法人日本自然環境専門学校＜新潟市＞



〒950-0086
新潟県新潟市中央区花園1-3-22
ＴＥＬ．０２５－２４７－００１１
ＦＡＸ．０２５－２４７－８５０１
E-mail　ikarashi@caretech.ac.jp

【新潟県】
公益財団法人鼓童文化財団＜佐渡市＞

〒952-0611
新潟県佐渡市小木金田新田150-3
佐渡太鼓体験交流館内
ＴＥＬ．０２５９－８６－２３２０
ＦＡＸ．０２５９－８６－２３８５
E-mail　heartbeat@kodo.or.jp

【山梨県】
公益財団法人キープ協会＜北杜市＞

〒407-0301
山梨県北杜市高根町清里3545
ＴＥＬ．０５５１－４８－３７９５
ＦＡＸ．０５５１－４８－３２２８
E-mail　forester@keep.or.jp

【静岡県】
特定非営利活動法人アースライフネットワーク＜静岡市＞

〒420-0851
静岡県静岡市葵区黒金町12-5
丸伸ビル2F（フロントオフィス）
ＴＥＬ．０５４－２７１－８８０６
ＦＡＸ．０５４－２５４－７０５２
E-mail　apply@sccca.net

※新たに追加された地域ESD活動推進拠点は、随時ホームページに掲載します。

関東地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development
東京都渋谷区神宮前5-53-67　コスモス青山B1F
TEL：03-6427-7975
時　間　10：00～18：00　　URL　http://kanto.esdcenter.jp
休館日　土曜、日曜、祝日、年末年始　　E-mail　kanto@kanto-esdcenter.jp

ESDやSDGsに関するご質問、ご相談など、ぜひお気軽にお寄せください。